

# 令和3年度 創造調和

令和4年3月15日  
半田市立半田中学校  
第16号  
学校だより

## 3. 11の教訓から ～大切な人を守るために 誰かにとって大切な自分を守るために～

11年前の3月11日、日本は大きな悲しみに包まれました。

私は、当時、東京代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターに出向していました。午後2時46分ごろ、船酔いに似た感じがしばらく続いたと思ったら、突然、大きな横揺れが置き、机が強い力で引きずられたので、すぐに机に潜って机の脚をしっかりと握りました。その間、天井からは照明やテレビが落ち、壁にも亀裂が入りました。外からは人の悲鳴も聞こえ、事の重大さを予感しました。



まさか、東京で直下型地震?! 大きな揺れは、5分以上続きました。

揺れが収まり、すぐさま大広場に避難すると、施設を利用する人であふれていました。中には、恐怖のあまり過呼吸になってしまった人もいたので、職員で、毛布、長椅子、衝立、水を準備しました。

余震は何回も続きました。携帯電話はつながらなくなり、公衆電話の前には長蛇の列となりました。ここは広域避難所になっていたため、帰宅難民となってしまった人が次々に避難してきました。施設の安全を確認した後、順次施設に誘導し、非常食や毛布を配付しました。非常食は3日ともちませんでした。コンビニに行っても食料はない、電池はない、トイレットペーパーはない、お米もないという状態でした。

それより驚いたのは、ニュースで津波が堤防を乗り越え、まちをのみこむ様子です。津波が迫ってきているビルの屋上から助けを求める人、原子力発電所が次々に爆発し火災を起こしている様子は、言葉を失うほどでした。

東日本大震災により、多くの人々の命が犠牲となりました。この年の世相を表す漢字が「絆」でした。日本人は、「大災害の中でも、人への思いやりを忘れない」と、日本人の心を世界中の人が支持してくれました。

帰宅難民となり、夜通し家まで歩いて帰らなければならなくなった際、「トイレのご利用どうぞ」と看板を掲げたり、物が散乱するスーパーで、落ちていた物を拾ってレジに並んだりする姿がありました。また、避難所で「これからどうなるんだろう」と嘆くおじいさんを見て、横にいた高校生が、「大丈夫、大人になったら僕らが絶対に元に戻します」と言って、背中をさすっている姿もありました。

東日本大震災で日本は大変な被害を受けましたが、若者たちは懸命に知恵を絞り、決して復興をあきらめないで汗を流して努力し続け、急速な復興を遂げました。

1年生は、半田中学校避難所運営委員会の皆様のご支援をいただき、防災を学びました。「だれにとっても優しい避難所」を目標に、コロナ禍における避難所運営マニュアルの見直しと改訂を行いました。これらの取り組みを通して、生徒は、助けられる人から助ける人へ意識が変わってきたように思います。

3月10日は、防災学習のまとめとして、ドキュメンタリー映画「いつか君の花明かりには」の監督 小川 光一さんをお招きし、上映会・講演会を開催しました。

小川さんから、以下のメッセージをいただきました。

- ・自分の住んでいる場所は決して大丈夫とは言えないし、災害はいつ来るかもわからない。まず、いろいろなタイプの災害があることを知り、起きたときにどう行動すればよいかを考えてほしい。自然災害は、備えればある程度は防げる。
- ・大切な人を守るために、誰かにとって大切な自分を守るために、いつかやろうではなく、今やろう。自分の判断で大切な人を守れなかったら一生後悔する。だから、自分たちのことと置き換えて、防災のことを考えてもらいたい。まず、自宅から学校まで、どこが危険かを見つけてほしい。
- ・花明かりとは、花が咲くことで、ほのかにそのあたりが明るく見えるところがある。防災は、花明かりのようなものである。10年経ったら10年先の防災があるが、災害が起きていなくても、逃げることは大切にしてほしい。備えていることで、災害が起きたときの向き合い方が違ってくる。

東日本大震災では、岩手県釜石市で、児童生徒が率先避難をし、だれも犠牲者を出さなかったことから「釜石の奇跡」と言われ、話題となりました。

まず、想定にとらわれないこと、つまりハザードマップを信じるなどということです。ハザードマップを見ると、大抵の人は自分の家が被災ゾーンの外にあると安心します。でも次に来る災害がそうだとは限りません。想定にとらわれないことが大切です。

そして、最善を尽くすこと。あの日、生徒は最善を尽くしてより高台へ逃げたからこそ、全員が助かりました。いざというとき、全力を出し切ることは大切です。

そして、率先避難者となること。人は避難すべきだとわかっている時でさえ、自分の町は大丈夫と思い込んで避難しないものです。誰も避難しない中で、自分だけ避難する気にならないのは自然なことです。勇気を出して最初に避難する人になれば、他の人もついてくるはず。そうすれば、その人達の命を救うことができるのです。

